

親鸞聖人七百回忌、七百五十回忌法要 青山徹之
1960年、龍谷大学に入学した私は、大宮学舎から深草学舎に通学するようになった。それは龍谷大学が深草学舎を、親鸞聖人700回忌記念として深草学舎を開校されたからである。当時の深草学舎は、進駐軍の使用していた建物をそのまま教室に使用したものであった。
龍谷大学入学当時は、苦学生であった私は大阪の寺から通勤して、仕事の関係から授業を受けられないことも度々あった。そのうちに京都の平安高校で仕事が見つかり、ようやく授業も受けれるようになった。そんな時に、西本願寺で親鸞聖人700回忌が行はれたのである。大学に入学して以来学校と仕事で一度も里帰りしていない時、富山の父が700回忌参拝団体をつくり西本願寺へ参拝された。浄明寺門徒の方たちと共に平安高校の私の事務室を訪問された。富山浄明寺住職弟慶雄の手紙によると、青根の角地さんが私に会いに来て下さっていたとか。そして、父の参拝団と共に私ははじめて里帰りをしたことをおぼえている。私にとっては、親鸞さまの大法要は本当にうれしかった事でした。
もう一つの思いでは、歌手島倉千代子さんが本願寺会館で「親鸞さま」の歌を歌われ私達龍谷大学生が聞きにいったことを懐かしく思い浮かべている。

50年後の今年、2011年5月16日、私は妻紀美子と米国仏教団開教使45年目にご本山の親鸞聖人750回忌に参列し、第14回世界仏教婦人会大会に参加した。北米、ハワイ、カナダ、南米の海外開教区と日本仏教婦人会員四千人が参加。東日本大震災のため参加者がへったが私の教区からは25名参加した。

最近、日本から中国の二胡奏者ジャンシャウインさんのCD「幸せへの扉」慈しみの心をいただいた。その中に、50年前本願寺会館で聞いた島倉千代子さんの「しんらんさま」の曲が入っていた。私は三年前から高齢者教室でハーモニカを学んでいる。ジャンシャウインさんの二胡の演奏に合わせてハーモニカを吹いてみると、綺麗な音色で演奏が出来る。ハーモニカ教室でこの曲を独奏すると、皆さんが喜んで下さる。そんなことから、仏教会会員の方が病院に入院されると、病院訪問しハーモニカを聴いてもらうようにしている。

私は、ローズビル市のサター病院のチャップレン相談員を勤めている。病院では、最近音楽療法を始めている。悩む病人の部屋にハーモニカ奏者が赴き演奏する。私は、病室に赴きハーモニカで「しんらんさま」を独奏する。先日も、105歳のおじいさんが危篤だから至急訪問してくれと頼まれた。この方の枕元でハーモニカ独奏。「赤とんぼ」「夕焼け小焼けで」を吹いた。おじいさんは、危篤のうちから手を上げ日本の童謡を喜んでおられた。家族親戚の方たちが、私の訪問を喜んで下さった。

この度の訪日では、団体で沖繩巡拝をした。メリスビル仏教会会員の谷本茂さんが第二次世界大戦のおり、二世部隊で沖繩で活躍されたが、私の訪日2週間前亡くなった。亡くなる数日前病院訪問すると沖繩の洞窟の上で日本の方たちを援助しようと呼びかけておられたとか。谷本さんに私が沖繩巡拝をすること、洞窟でおまえりをすることと、ハーモニカでしんらんさまを独奏することを約束し、25名の団員とおまえり、ハーモニカを吹いた。

一日だけ、富山の自坊にもどり亡き母の13回忌をさせていただいた。親戚、兄弟、兄の長女夫妻が出席。アメリカから、わざわざ来てくれたと、私が母の思い出と法話をさせていただいた。そして、法話の中に、しんらんさまのハーモニカを独奏した。

亡き母も喜んでくれているだろうと念仏合掌させていただいた。

このたびの大法要には、私の兄弟が全員おまえりさせていただいた。

ドイツの兄は、ヨーロッパ真宗関係の団体を引率、私はアメリカから、

富山の弟、京都の妹は4回、船橋の弟は二回、北海道の直樹も参拝。

青山家と親鸞さまは、世界に渡って人々に話しかけております。

しんらんさまは、アメリカの病室でも働いて下さっています。

昨年ハリウッド映画監督が私達ハーモニカ教室にみえ、私達を撮影され、インタビューをされました。最近インタネットの「ユーチューブ」でそのドキュメンタリーとして入っています。読者の方は、「ユーチューブ」を開けてみてください。

最後に、伯父館熙道さんの書「花なれば」の文を紹介しよう。

「思えば、私に聞こえて下さる念仏は仏さまの声でありそして祖師の声であります。悩みにくれ途方にくれる私に聞こえて下さるのが念仏であります。その念仏は800年の年月に風化した念仏ではありません。念仏なからば行方もしらずさすらふはずの私が泣きながらも笑みながらも、峠を越えようが谷を渡ろうが、くずれないでゆがまないで、はるか浄土をのぞんで生きているのであり、それこそが私の真実の生き様であります」と。